

2020年 オートバックス全日本カート選手権 OK 部門第9戦・第10戦
2020年 全日本カート選手権 FS-125/FP-3部門 東西統一競技会
2020年 ジュニアカート選手権 FP-Jr/FP-Jr Cadets 部門東西統一競技会

2020/12/12
大会事務局

ドライバーズブリーフィング資料

1. 競技全般

- (1) スタートラインは、コントロールラインの先1コーナー側チェッカーマークのラインとする。
- (2) フィニッシュラインは、タワー前のチェッカーマークのラインとする。
- (3) ピットロードでは、十分に速度を落して走行する。速度の速いドライバーには、ペナルティーを課す。
- (4) 空気抵抗を避けるため、頭を下げての走行は重大な危険行為となる。必ず視野を確保して走行すること。
- (5) 走行中(ローリング中を含む)の無理な追い越しや幅寄せ、プッシング、非スポーツマンシップの行為は禁止。
コースマーシャルが危険行為と見なした場合にはペナルティーの対象となる。
- (6) 黄旗提示区間の「徐行」、「追い越し禁止」を厳守すること。
- (7) 競技を中断する場合、全ての監視ポストで赤旗を提示し、レースを中断する。ドライバーは、オフィシャルの指示に従い、コース上に停止する。その際行える作業は、競技長の指示に従う。
- (8) 走行中に天候が急変した場合、もしくは急変が見込まれる場合、走行は赤旗により中断される。
- (9) チェッカーフラッグを受けたカートに対して、黄旗の不動表示を提示する。Wチェッカーは、ペナルティーの対象となる。
- (10) 走行中に消音器が脱落した場合、即座に安全な場所に停止すること。走行し続けた場合は黒旗でレース除外とする。
- (11) セル始動車両のウォームアップは、カートが完全に地面に接し走行できる状態でのみ認める。なお、主催者指定のウォームアップエリアは、スタンド上でのセル始動を認める。 ※ウォームアップエリアは、レイアウト図を確認してください。
- (12) ピットからの押し掛けは、ピットロード出口(本コースの合流地点)までとし、エンジンの掛からない場合ピットに戻す。
- (13) コースインは十分に速度を落として右端を走行し、コースイン直後にレコードラインを走行しない。(裏面の図を参照)
- (14) ニュートラリゼーションは別紙手順書に従い、追い越しは禁止され、追い越した場合はペナルティーが課せられる。

2. タイムトライアル

- (1) 各ドライバーは、タイムトライアルとして設定された時間内(7分間)は任意に出走でき、コース途中で停止した場合、再び走行する事ができる。但し、ピットインした場合はコースインする事は認められない。また、義務周回数には定めがない。
- (2) 公式練習・タイムトライアル時の黄旗区間における追い抜きは、タイムトライアルのタイム抹消とする。

3. 予選・決勝ヒート

- (1) スタート前、工具持込み禁止エリア・ダミーグリッドへの入場
 - 1) 工具持込み禁止エリア・ダミーグリッドへの入場は規定時間を過ぎると入場できません。入場時間には充分留意する。
 - 2) 工具持込み禁止エリア・ダミーグリッドでは工具の使用は禁止とする。工具を必要とする作業は作業エリアで行う。
 - 3) 工具持込み禁止エリアへの入場前はフロントフェアリングを装着せず、入場後に装着し必ず車検委員の検査を受けること。
- (2) フォーメーションラップ
 - 1) フォーメーションラップ中、自身のグリッド及び幅2メートルのレーン(以下コリドー)内を維持するのはドライバーの責任である。
 - 2) フォーメーションラップ中、フロントローのドライバーは後続カートが追尾できない早いスピードや極端な低速走行を禁止する。
7番ポスト通過後は隊列が整列できるよう走行し、これを怠った場合は白/黒旗で警告し、再度行った場合はスタート後、競技長はその旨を大会審査委員会に報告する。同委員会は違反したドライバーに対しペナルティーを課す場合がある。
 - 3) フォーメーションラップ中、最終コーナー手前のレッドラインからスタートラインまでを隊列復帰禁止区間とする。
 - 4) フォーメーションラップ中に停止した場合、全車両が通過するまでは再スタートを試みてはならない。再スタート後は、隊列の最後尾につき、自分のグリッドに戻ってはならない。
 - 5) フォーメーションラップ中に停止することなく大幅に隊列から遅れたドライバーは隊列の最後尾につき、自分のグリッドに戻ってはならない。その場合当該ドライバーに白地に赤色の×印の表示板を提示する。
 - 6) ピットスタートをする車両は、フォーメーションラップの隊列がレッドラインに差し掛かった時点から、全車がピットロード出口を通過するまではピットスタートを禁止する。この際、スタート合図がなされた場合、ピットスタートはできない。

(3) スタート

- 1) スタート合図は赤8灯、オレンジ2灯の信号機とホームストレート延長線上にあるオレンジ2灯の信号機を使用する。
- 2) フォーメーションラップ終了時、ドライバーは2列で自分のポジションを保ち、コリドー内を減速してスタートラインへ向かう。
- 3) フロントローのカー트가イエローライン(加速ライン)を通過するか、赤信号が消灯するまでは、加速は禁止される。
- 4) フォーメーションラップの隊列が整った場合、赤信号(8灯)が消灯されスタートとなる。
※赤信号(8灯)が消灯した時点でレースはスタートされ、上記の規制は解除される。
- 5) フォーメーションラップで隊列が整っていない場合、オレンジ信号(2灯)が点灯され、フォーメーションラップはさらに1周行われる。隊列をコントロールするフロントローのドライバーは、上記内容を十分理解し、隊列を安全に先導する義務がある。
- 6) 再度不正スタート(フライングなど)があった場合には、競技長はスタート進行を中断するか、もしくはスタート後にその旨を大会審査委員会に報告する。同委員会は不正を行ったドライバーに対しペナルティーを課す場合がある。
- 7) コリドー内において自分の前が空席の場合を除いて、前カートとの間隔を1/2車両以上空けてはならない。もし、このような状態からスタートを行い、アドバンテージを得た場合は不正スタート見なしペナルティーを課す場合がある。
- 8) スタート後、先頭の車両が1周するまでにスタートラインを越えない車両はそのヒートに出走することはできない。

(4) レース中の留意事項

- 1) コース上での停止やコースアウトした場合、他を妨害することなく後続車両が通過後、またはコース委員の指示に従ってレースに復帰すること。ジュニアクラスにおいて、カートから降車しての復帰は認められない。
- 2) コース上に停止し、コースオフィシャルの指示に従わない場合、及び後続車両通過前に再スタートした場合、1周減算とする。ジュニアクラスは当該ヒート失格とする。
- 3) OKクラス決勝ヒート、ジュニアの予選・決勝ヒートにおいて、周回遅れおよび周回遅れになろうとしているドライバーに対して青・赤旗(二重対角線で区分)が示される。青・赤旗を振られたドライバーは速やかにピットインし、車検を受ける。
- 4) 後続車が無い場合に限り、コース復帰の為の最小限の方向転換は認める。
- 5) ラジエターへの温度調整用付加物は、危険な構造ではなく、堅固に固定されていること。簡単に取り外せる物は認めない。

4. ドライバーに対する留意事項

- (1) 予選・決勝とも加算ポイントシステムを採用する。予選グリッドは統一規則書第26条に従って決定される。決勝ヒートのグリッドは予選ヒートのポイントにより決定する。ポイントペナルティは、下位の順位のポイントに加算される。
- (2) データロガーの設置場所については01ポストから02ポストとし、それ以外の場所に設置した場合は撤去する。
- (3) リタイヤの場合、エントラントとドライバーの署名の上、リタイヤ届を書面にて提出すること。
- (4) ピットエリア・パドックエリアでの火気および高熱を発生する作業は指定されたエリアで作業すること。
- (5) ヘルメットのあご紐およびレーシングスーツ前側上部のファスナー押さえ用ストラップは確実に締めること。
- (6) 捨てバイザー(シールド)を走行中に取り外すことは、禁止する。ペナルティーの対象となる。
- (7) 点火装置について

FS-125部門において技術委員は、各車両に対して点火装置の作動確認用測定器の装着を指示する場合がある。また、競技会審査委員会の指示に基づき、エントラントに対して当該車両の点火装置を技術委員長が指定する同一型式の他のものに交換させる場合がある。この時、本件に関する抗議は認められない。

5. 通達事項

- (1) **大会開催期間中の暴力行為、暴言(チーム内を含む)は止めてください。**
- (2) 公式掲示板は西パドック設置、公式計時はコントロールタワー前に設置します。
- (3) 自動計測機、クラッチ回転数測定器は走行中に落下する事のないよう、確実に取り付けてください。
- (4) ピット・パドックの清掃を心がけ、ゴミなどはコントロールタワー前一ヶ所に集めて下さい。(ゴミ袋はタワー前)
- (5) パスコントロールを行います。入口では必ずパスを提示してください。
- (6) 表彰式の際当該ドライバーはレーシングスーツを着用してください。
- (7) スムーズなレース進行を行うために、オンタイムにご協力ください。
- (8) フェアプレイに徹し、レース期間中怪我の無いようにつとめ、日頃の実力を十分に発揮してください。

ピットからコースインする車両は、十分に速度を落とし、2コーナー立ち上がりの解除パイロンまではコースの右端を走行して、走行ラインに入らない様に注意して下さい。

